置戸町

前田えりも

１．概要と歴史

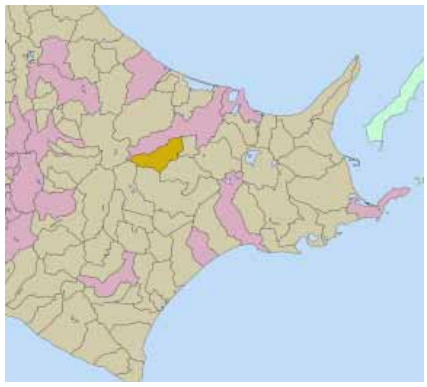
1.1　　地名の由来

置戸町の地名の由来は、アイヌ語で「オケトウンナイ（鹿の皮を乾かすところの意）」から名付けられる。

1.2　　歴史

置戸町の先住民族は網走からの移民だと言われており、夏場は湖沼・海岸で漁獲に従事し、秋口から山に獲物を求めて狩猟を行う遊牧的な生活をしていたという。イオマンテ（熊祭り）というアイヌ文化を代表する祭典は、川は海から山奥へさかのぼる生き物としてとらえ、川上に神が住んでいるという観念から、成長した子熊を食用とするための、伝来の信仰を発展させた儀式もあったようだ。明治２年、北海道開拓とアイヌの立場を考察すると、開拓方針として最初は、アイヌの協力に期待を示す面を表していた。アイヌの保護・教育・風俗を守ることを岩倉右大臣が訓諭していた。しかし北海道内でのアイヌ居住人口は明治 6 年は 1 万 6000 人であり、明治 30 年代でも 1 万 7500 人を前後していた。そして本州方面から和人が進むと、現住者の天地から、移住者の天地へと変わっていく。そして近年の話では、1920 年 6 月訓子府村（現訓子府町）から分村、1945 年 4 月には野付牛村（現北見市）から分村、置戸村となる。1949 年 7 月には留辺蘂町へ一部分割し、1950 年 6 月町に昇格、置戸町となった。

図 1　置戸町の位置



出典：Wikipedia

2．地理・気候

2.1　位置

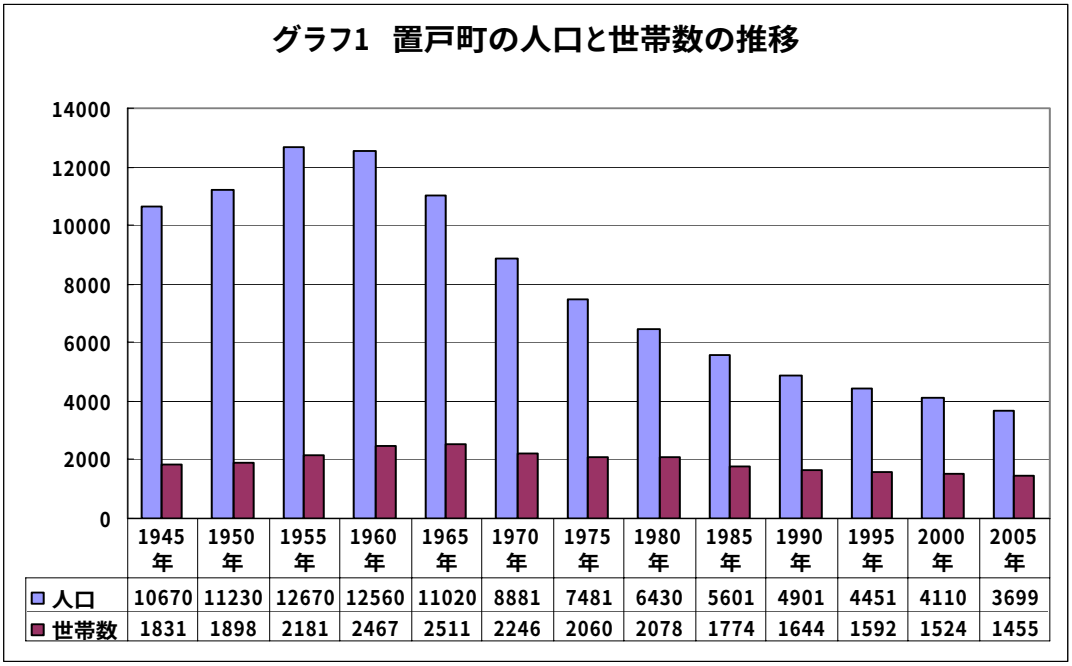
置戸町は北海道の網走管内に属し、北見市、訓子府町、陸別町、足寄町、上士幌町と隣接する、横長

の町である。北緯 43 度 30 分 20 秒～43 度 46 分 24 秒、東経 143 度 40 分 30 秒～143 度 10 分 35 秒に位置し、東西 40.30 気 km、南北 29.60km に渡る。大雪山の東側に接し、周囲を山々に囲まれた町である。置戸町を流れる常呂川最上流には鹿ノ子ダムがあり、山あいに美しい桶と湖がたたずんでいる。

2.2　気候

夏冬・昼夜の寒暖の差が大きく積雪降雨が少ない、典型的な大陸性の気候。台風や地震などの災害は少ない。

3. 人口世帯数の推移



	1945年	1950年	1955年	1960年	1965年	1970年	1975年	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年
人口	10670	11230	12670	12560	11020	8881	7481	6430	5601	4901	4451	4110	3699
世帯数	1831	1898	2181	2467	2511	2246	2060	2078	1774	1644	1592	1524	1455

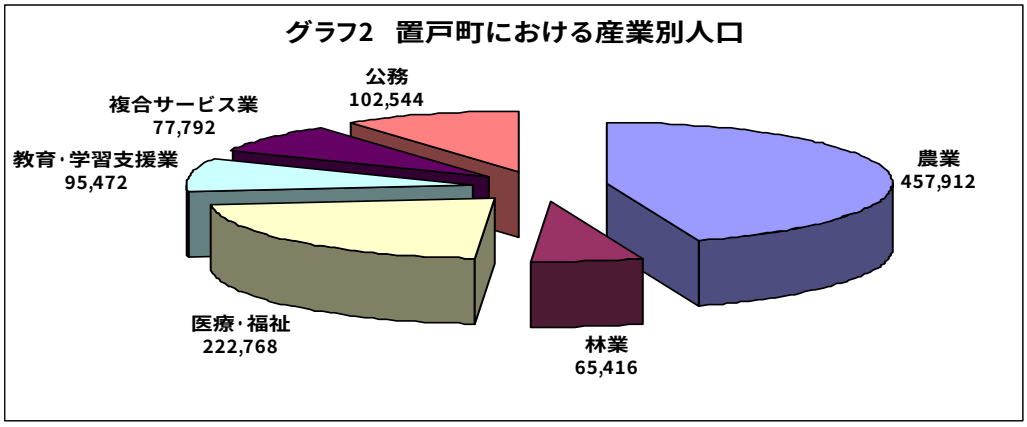
出典：国勢調査、住民基本台帳

グラフ 1 のとおり、置戸町の人口は昭和 30 年代をピークに年々減少し続けて、平成 17 年には昭和 30 年の約 4 分の 1 にまで減少しているのが見受けられる。しかしその一方で世帯数はあまり大きな変動を見せていないところから、昭和時代の二世帯同居から、平成時代の核家族化の傾向があると予測される。また生産年齢者の割合が、置戸町の人口の割合のうちの、54.9%である。年少者は 10.9%、高齢者は 33.8%である。そのところから、置戸町の現時点での過疎化が進行していくことが問題である。また総世帯数が 1,455 世帯のうち、150 世帯が農家であり、林家は 259 世帯である。

4. 産業

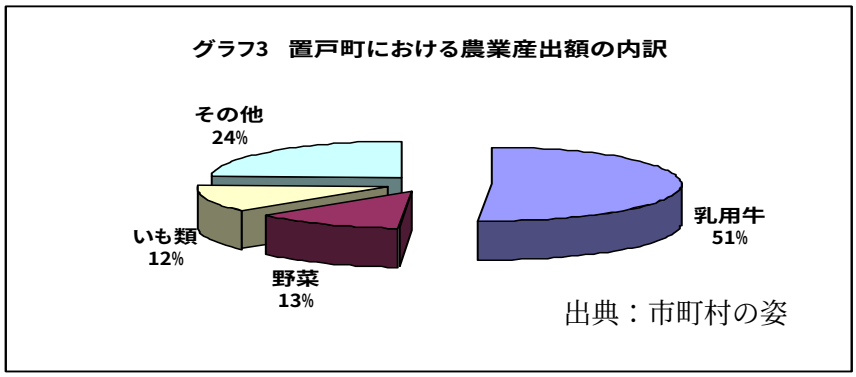
4.1　置戸町の産業

置戸町の産業は、グラフ 2 のとおり農業で占めている。詳しい数値は、全人口 3,699 人のうち、勤労人口は 1,768 人、農業従事者は 457.912 人、林業従事者は 65.416 人、医療・福祉関係者は 222.768 人、教育・学習支援業は 95.472 人、複合サービス業は 77.792 人、その他に含まれない公務は 102.544 人である。内陸町なため、漁業従事者はいなく、また置戸町には水田もない。



出典：網走支庁ＨＰ

また近年では、未利用資源活用を模索し、木工クラフトによる産業育成により、単なるモノづくりではなく、工芸的な考えに基づく町づくりをめざす。多品種の木工クラフトの他、地域農産物などを活用した特産物も活発化。作る作業が中心となって、地域活性化が図られている。



出典：市町村の姿

4.2　置戸町の農業

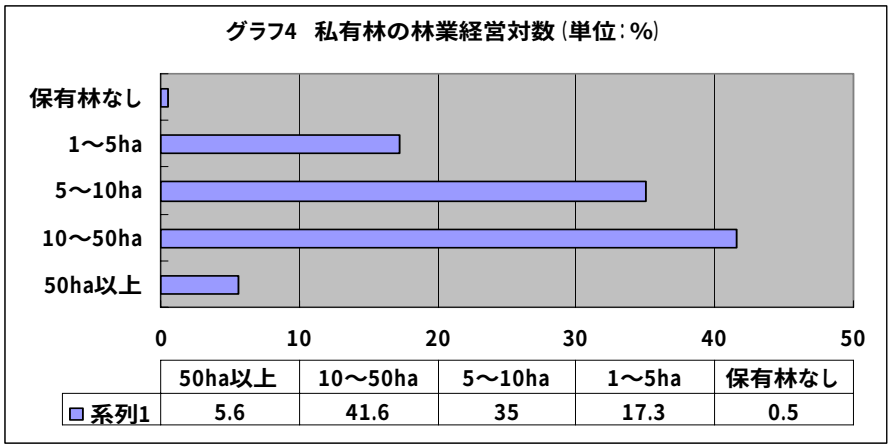
右のグラフより、置戸町の農業は酪農が半分を占めていることが分かる。また畑作はというと、玉葱が 144ha、小麦が 547ha、大根 2ha、白菜･キャベツ 1ha、人参･茄子･トマト 0ha･･･と、極端に玉葱と小麦に特化したものである。

また他には生しいたけが盛んである。置戸町のしいたけは、かさが七～八分に開いてるもので厚みがある。軸は太くて短く、全体に傷が少なくつやがく、かさの裏が黄色で綺

図 2　置戸産生しいたけ

出典：置戸町 HP

麗なのが特徴である。



出典:農林水産省ＨＰ

4.3　置戸町の林業

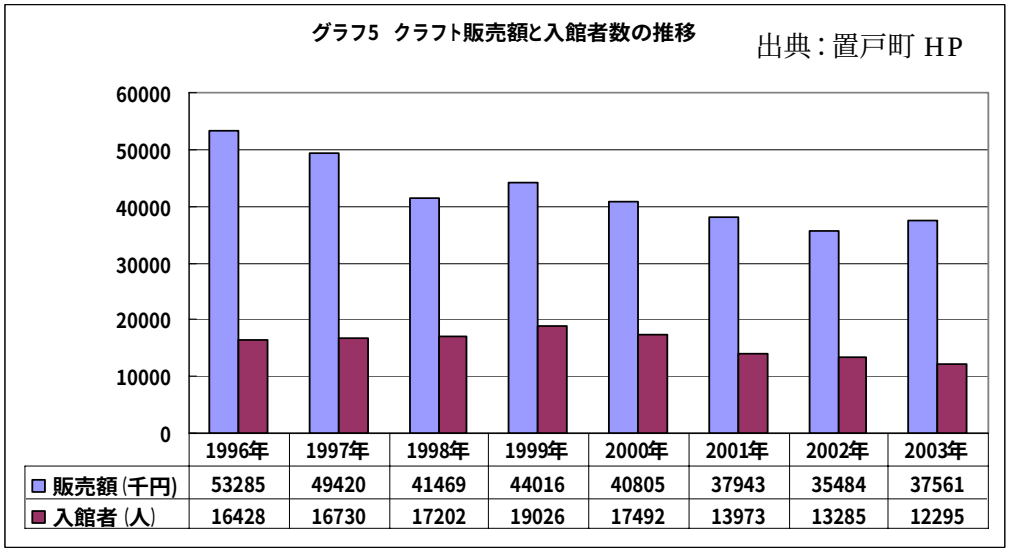
置戸町の林野面積は449,500ha あり、置戸町全体面積の 85%である。そのうち国有林が 31,134ha であり、民有林が 13,816ha である。針葉樹、広葉樹が多く生えており、人工林が 23,993 百㎥、天然林が 55,878 百㎥である。

4.4　置戸町の工業

昭和 59 年度から平成 15 年度までに、この制度により 42 名の研修生を受け入れており、現在までに 16 名が町内に個人工房を開設している。このうち 12 名は町外からの I ターンであり、家族を合わせると 30 人が新たに町民となったほか、クラフト共同工房で 15 名が生産活動を進めている。また、町内には研修生の工房を含め 23 もの工房が開設され、

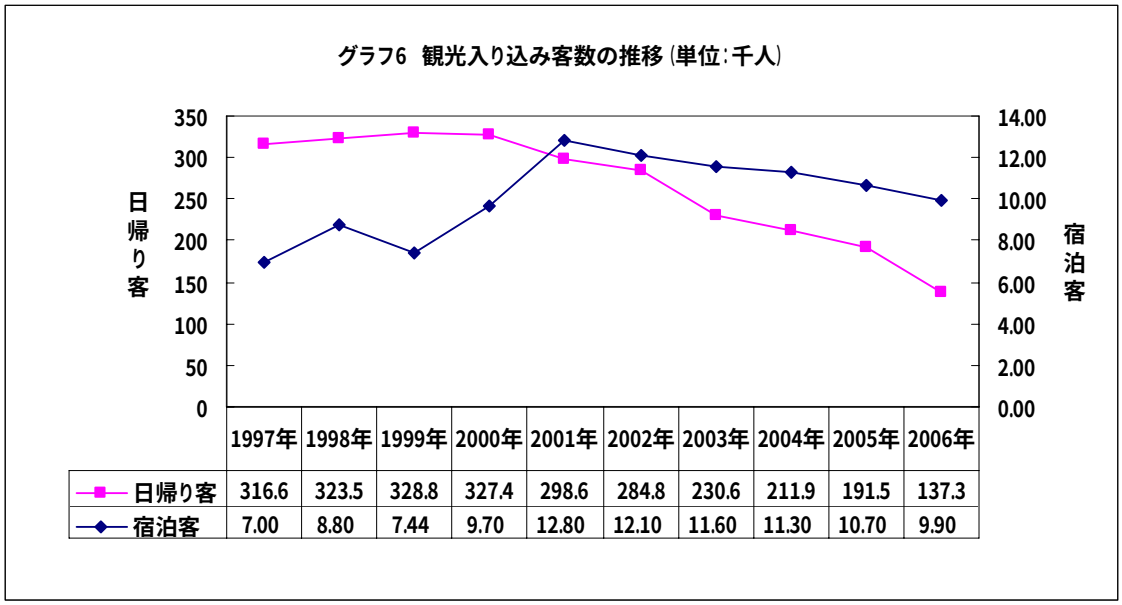
図 3　クラフトのお皿

出典:クラフトセンターHP



クラフト販売額も 4～5 千万円に達し、オケクラフトセンター森林工芸館には、全国から年間 1 万 5 千人以上の視察者が訪問など、オケクラフトは置戸町のランドマークとなった。このほか、地域振興を人づくりから始めるという地道な取り組みが「オケクラフト」という特産品を生み出したことから、町民の意識も変わり始めており、町づくりへの積極的な参加がみられる。

5. 観光



出典:置戸町 HP

グラフ 5 より、置戸町に訪れる観光の日帰り客は 1999 年をピークに大幅に減り続けている。上のグラフ 4 と照らし合わせてみても、1999 年のクラフト工場の入館者数が最盛期せあることから、置戸町に訪れる観光客はたいていクラフト工場に足を踏み入れているのではないだろうか。

5.1 鹿ノ子ダムとおけと湖

鹿ノ子ダムによりせきとめられてできた、周囲 13.4km の人口湖「おけと湖」ここは、野鳥や野草の宝庫と言われていて、また夏はヤマメやアメナス、冬はワカサギやニジマスを釣ることができる。

5.2 森林体験交流センター

おけと湖に面していて、面積の 80%が森林という置戸町の森林の様子や、樹木とのかかわりを体験的に学ぶことができる。また湖に飛来する 60 種以上の野鳥を見ることができる。

5.3 鹿ノ子沢

置戸市街から約 13km、鹿ノ子ダムの下流に「鹿ノ子沢」がある。往復 1 時間 30 分のハイキングコースは、1 年を通

図 4 森林体験交流センター

出典:置戸町 HP

図 5 鹿ノ子沢

出典:置戸町 HP

じ幅広いを通じ幅広い年齢層のかたに親しまれている。角度・季節によってその表情を変える「虹の滝」「糸ひき滝」、全国の巨木 100 選にもえられ、樹齢 200 年を超える「三本桂」、そして「忍び岩」「雲突岩」「風岩」などの天然の奇岩に、誰もが自然を感じるだろう。散策の途中では、数多くの鳥や高山植物を見かける。小川が流れ木が生い茂る「鹿ノ子沢」の恵まれた自然環境を、このままの姿で次世代に引き継いでいかなければならない。

図 6　イケクラフトセンター「森林工芸館」

出典:置戸町 HP

5.4　イケラクラフトセンター「森林工芸館」

オケラクラフトをはじめ、草木染めや手作り雑貨など、町内の工房で製作された作品を展示・販売している。またオケラクラフトの製作を見学できる。

図 7　どま工房

出典:置戸町 HP

5.5　どま工房

地域に受け継がれてきた生活の知恵と生産技術を伝承し、さらに「技術と情報と人の交流」を図るための拠点となっている。工業デザイナー、故秋岡房夫氏が収集した江戸期から現在までの生活用具とそれを製作するための道具類、著書などの一部も展示されている。

5.6　置戸町郷土資料館

置戸町郷土資料館には約 2 万年前の旧石器時代のものから、ごく最近まで使用されてきた生活用具や産業機具などが展示されている。収集作業には昭和 30 年の旧石器調査から始まっているが、本格的な収集作業に入ったのは昭和 45 年の置戸町立図書館の中に設けられた郷土資料室の設置からである。特に林業に関する資料と、鳥のはく製など自然に関する資料は、どこの資料館にも劣らない数が展示されている。収集活動を始めて 30 有余年を経ているので、収蔵数及び展示数は約 1 万点にも及んでいる。

図 8　置戸町郷土資料館　自然コーナー

出典:置戸町 HP

5.6.1　自然コーナー

置戸町の総面積の 85%を占める森林地帯には、今も熊や鹿が住み、小鳥や植物の数も豊富である。自然コーナーはこれらの動物のはく製や、植物の標本、写真を展示した楽しいコーナーである。氷河時代の残存種といわれるナキウサギは、昭和 3 年置戸で最初の発見され今も生棲しているという

が、残念ながらはく製はいなく展示はされていない。

図 9　ナキウサギ

出典:置戸町 HP

5.6.2　農業コーナー

野付牛（現北見市）屯田の分家、あるいは秋田・青森・広島等の団体移民によって置戸の開墾が始まった。壮絶な重労働に耐え、闘った人々の開拓関係資料の中には本州から持参したものもあり、また創意工夫もして立派にその役目を果たした道具もある。

5.6.3　林業コーナー

林業で栄えた町を物語るように郷土資料館で展示、あるいは収蔵されている林業用具はその数において道内屈指と自負している。それは時代の流れで機械化が進む中、すべてを人力に頼って使用されていた時代の道具が捨てられ失われていく、これらの収集は今をおいてないと昭和 45 年から収集に奔走した結果得られたものである。今では想像つかない道具や生産事業の活動の様子を克明に伝えるためには模型が何よりと、郷土史研究会員で紙粘土づくりの名人が往時の造材現場に森林鉄道も入れて再現した模型が展示されている。

図 10　置戸町郷土資料館
農業コーナー

出典:置戸町 HP

図 11　置戸町郷土資料館
林業コーナー

出典:置戸町 HP

図 12　置戸町郷土資料館
林業コーナー

出典:置戸町 HP

5.6.4　復元コーナー

郷土資料館の一角に作られた昔の茶の間。そこには囲炉裏火がチョロチョロと燃え、ランプやカーバイトランプもある。丸テーブルには三平皿がのり、ワラで作ったおひつ入れもある。茶の間から離れると、昔よく川を上がってきたという鮭をすくうため用いた網が

あり、ヤスもある。川水を汲んで溜めたとき使ったのが大きな瓶。そば粉を作ったのか石ウス等々。当時のクラスに使った道具が所せましと並べられ、昔の暮らしを再現している。

図 13　置戸町郷土資料館
復元コーナー

出典:置戸町 HP

図 14　置戸町郷土資料館
復元コーナー

出典：置戸町 HP

参照ＨＰ
置戸町公式ＨＰ：http://www.town.oketo.hokkaido.jp
網走支庁公式ＨＰ：http://www.abashiri.pref.hokkaido.lg.jp
農林水産省公式ＨＰ：http://www.tdb.maff.go.jp/machimura/index.html